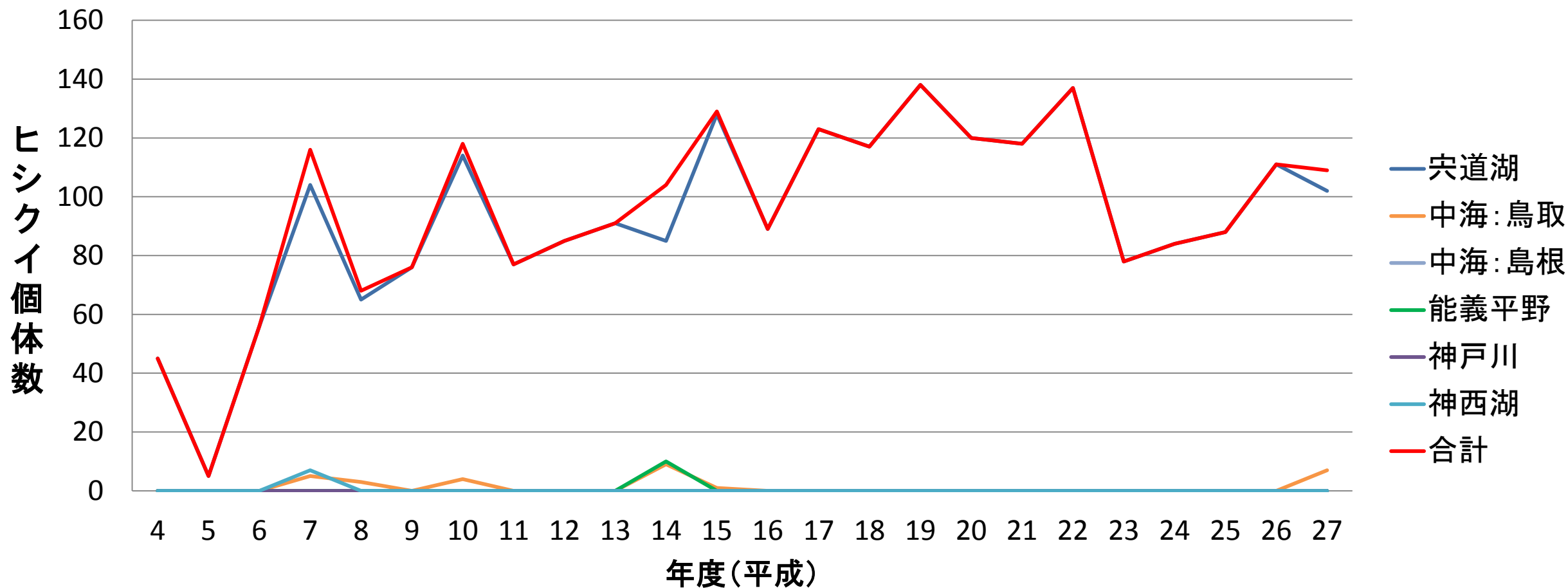
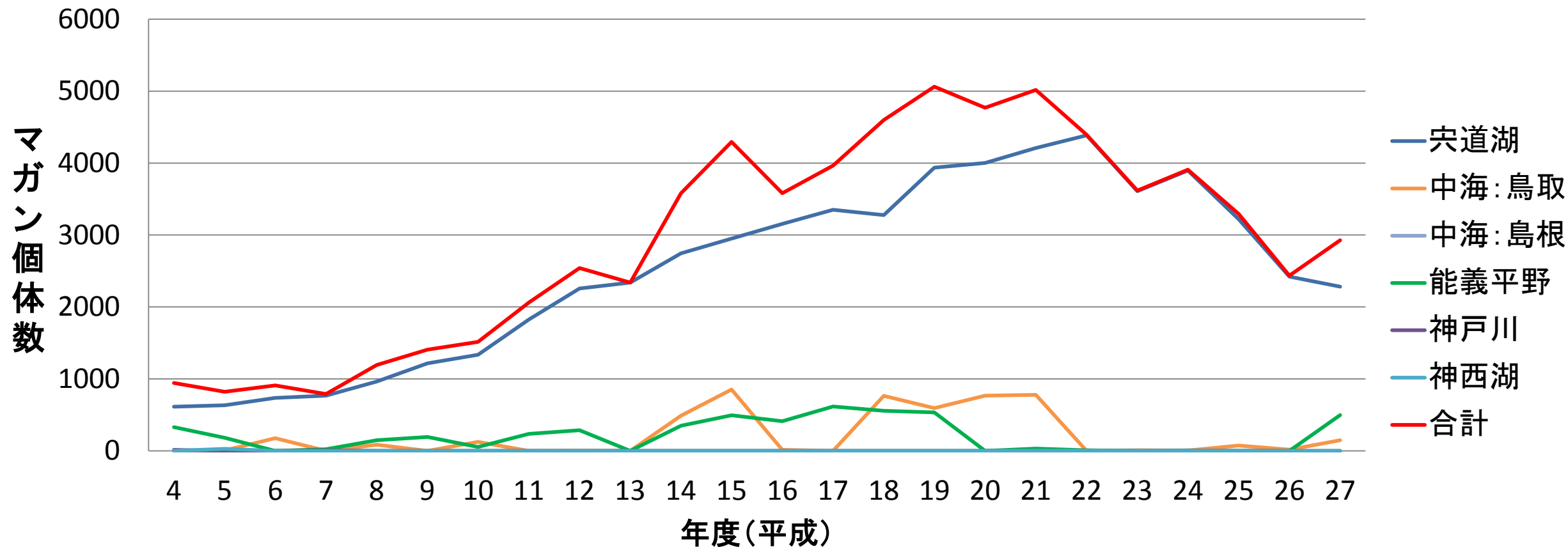


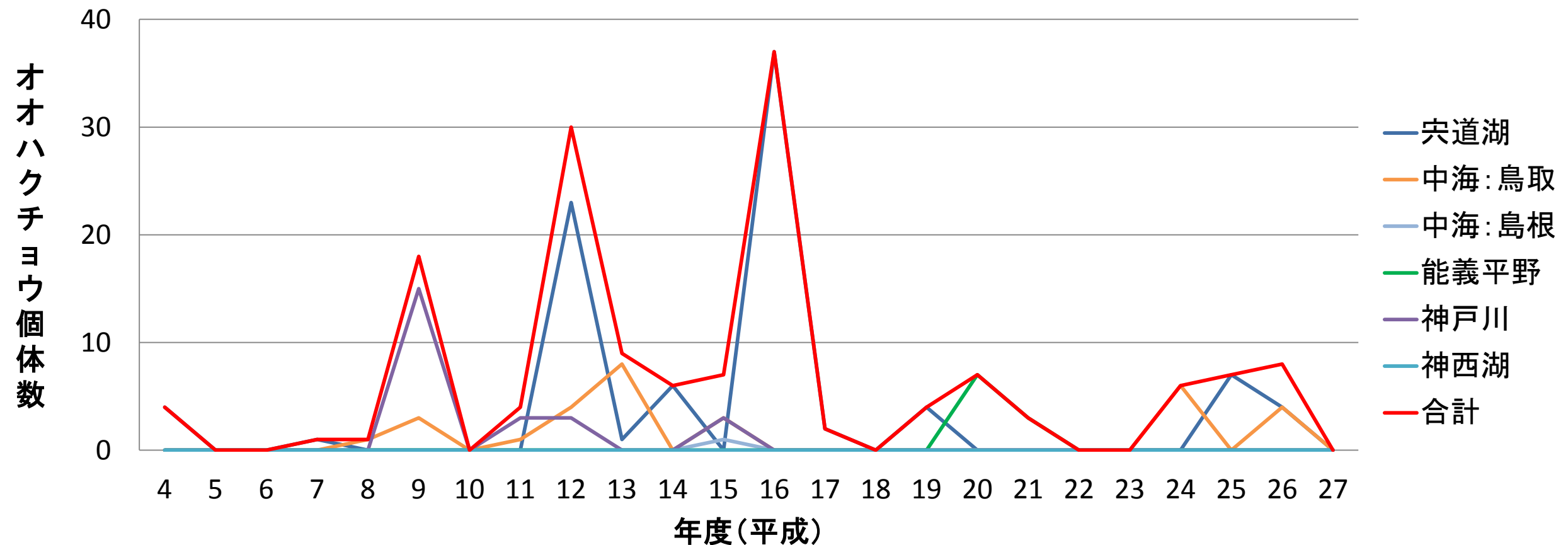
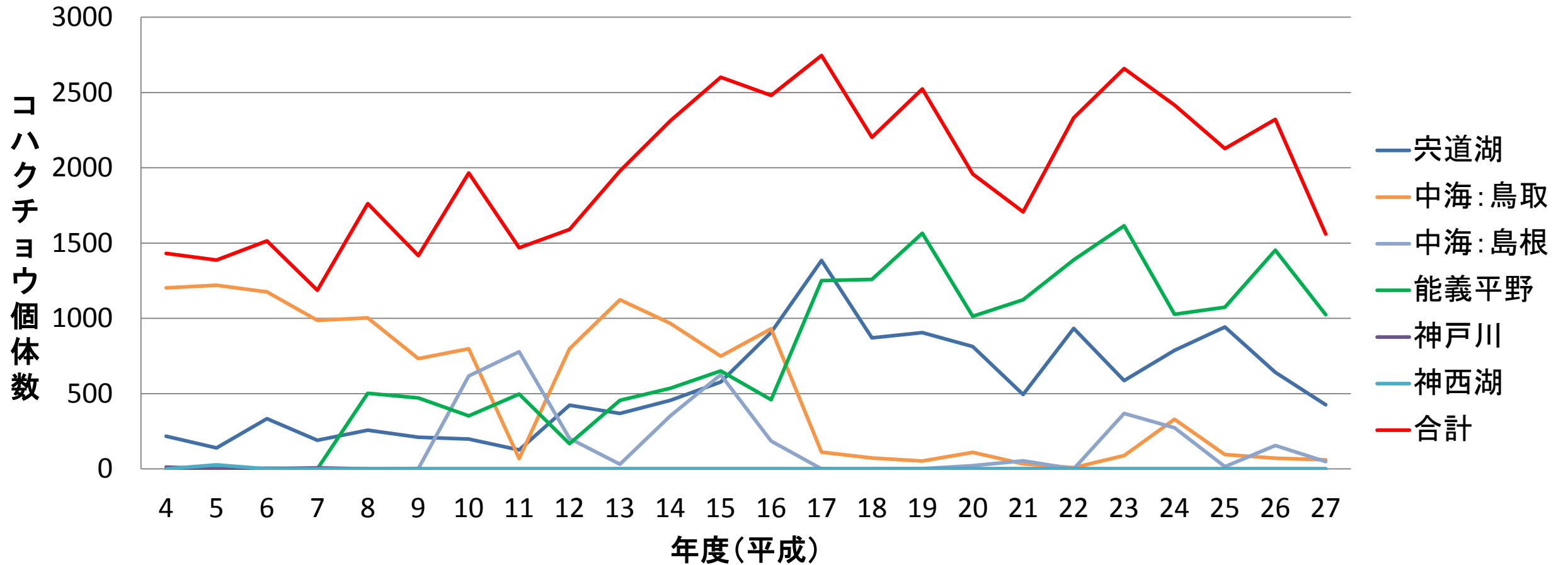
大型水鳥類に関する最近の動向について（報告）

1. ガン類・ハクチョウ類の圏域への飛来状況



※ 凡例の「穴道湖」は斐伊川、および、潟の内も含む

出典: 過年度のガンカモ類生息調査より



※ 「穴道湖」は斐伊川および潟の内も含む

出典: 過年度のガンカモ類生息調査より

2. ツル類・コウノトリの圏域への飛来状況（平成27年10月～平成28年11月）

【ナベヅル・マナヅル】

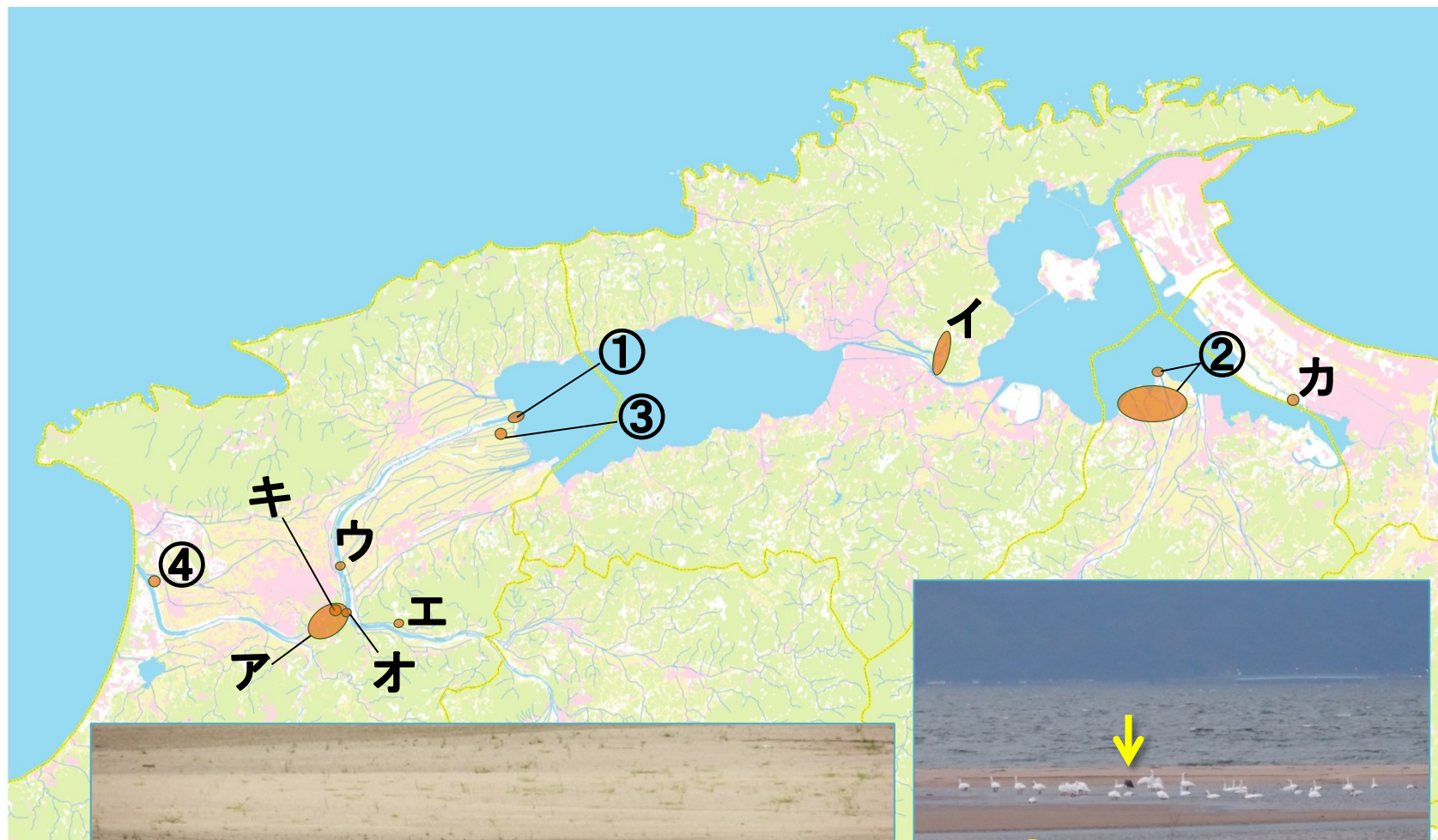
- ① 平成27年12月12～18日 ナベヅル3羽 出雲市 斐伊川河口周辺
 - ② 同 12月16日～平成28年2月17日 ナベヅル1羽 安来市飯梨川河口周辺
 - ③ 平成28年2月15日 ナベヅル1羽 出雲市 斐伊川河口周辺
- ※ 平成27年12月～平成28年2月まで、斐伊川流域で少なくとも1羽が越冬
- ④ 平成28年5月5日 マナヅル1羽 出雲市 神戸川下流域周辺

【コウノトリ】

- ア 平成27年10月17日 3羽 出雲市斐伊川放水路付近
- イ 平成28年7月27～28日 3羽 松江市朝酌
- ウ 同年8月18日 3羽 出雲市 斐伊川からさで大橋付近
- エ 同年9月28日 1羽 出雲市 斐川町水田
- オ 同年10月7日 4羽 出雲市 斐伊川放水路呑口付近
- カ 同年11月8日 2羽 米子市 米子水鳥公園
- キ 同年11月13日 1羽 出雲市 斐伊川放水路分流堰沈砂池

<以下、位置情報不詳>

- 【出雲市】 平成27年11月12日 6羽
平成28年3月14日 1羽
7月28～29日 3羽
8月23日 1羽
10月16・22・29日 1羽
- 【安来市】 平成27年10月22日 2羽
- 【米子市】 平成28年5月3日 1羽



3. 指標大型水鳥類【ツル類、コウノトリ、トキ】に関する全国の動き(平成27年5月～平成28年11月)

【ナベヅル・マナヅル】

- 平成27年5月 鳥獣保護法の改正により、法定計画として「希少鳥獣保護管理計画」の策定が可能となる。
- 平成28年2月15日 環境省が「中国・四国地方ナベヅル・マナヅル情報交換会」を開催。協議会からは佐藤仁志委員(日本野鳥の会)、同・生息環境づくり部会の森茂晃委員(ホシザキグリーン財団)、出雲河川事務所等の関係者が参加。斐伊川周辺のツル類飛来状況等に関して森委員が報告。
- 平成28年4月～ 環境省がナベヅル・マナヅルの国内新越冬地形成を目標とした「希少鳥獣保護計画」の年度内策定と、今後取り組む「事業実施計画」の検討を開始。
- 平成28年7月5日 環境省が「ナベヅル・マナヅルの新越冬地形成ワーキンググループ準備会合」を開催。斐伊川流域から佐藤委員、出雲河川事務所がワークショップ等に参加。

【コウノトリ】

- 平成27年11月29日 「コウノトリ保全フォーラム ― 野生復帰10年、そして新たな旅立ち―」(主催:コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル)が開催され、兵庫県立人と自然の博物館の三橋弘宗氏が“コウノトリ潜在生息可能域全国マップ”を発表。その中で宍道湖・中海周辺を含む山陰地域等が『生息適地』として示される。
- 平成28年6～10月 兵庫県(豊岡市他)、千葉県(野田市)、福井県(越前市)の国内3地域より、コウノトリ野生復帰事業による巣立ち幼鳥等が野外分散し、これまで以上に全国各地の水辺環境に飛来。



いしかわ動物園で飼育されている、一般公開予定のトキ(環境省資料)

【トキ】

- 平成28年9月 環境省が、平成26年8月に公表した「分散飼育地におけるトキの一般公開基準」に基づき、国内4か所の分散飼育地(島根県出雲市、新潟県長岡市、石川県いしかわ動物園、東京都多摩動物公園)の一つ“いしかわ動物園”において全国初となる佐渡以外での公開を行うことを発表。
- 平成28年11月 19日、いしかわ動物園で「トキ里山館」がオープン、トキの一般公開はじまる。出雲市トキ分散飼育センターで飼育するトキ(5羽)を野外への放鳥候補個体等とするため佐渡トキ保護センターへ、また、新たに佐渡トキ保護センターの飼育トキ(2羽)を出雲市へ移送することを発表。



ガラス越しにトキの生態を観察できる「トキ里山館」(いしかわ動物園資料)